

武漢事務所便り週間新聞記事報告 (2012年3月31日~4月6日)

4月1日武漢 深圳直通の高速鉄道が開通運賃は約550元(約7150円)

2012年3月31日 楚天都市報

4月1日より武漢 広州高速鉄道と広州 深圳高速鉄道の共同運行による武漢と深圳を結ぶ高速鉄道が開通し、毎日往復10便の列車が運行する。

武漢鉄道局によると、4月1日より武漢 広州高速鉄道と広州 深圳高速鉄道が新ダイヤを実施し、武漢から深圳まで訪れる乗客は広州南駅での乗換えが不要となる。武漢 深圳間の高速鉄道はオフシーズン(週末を含む)とピークシーズンの二つのプランで運行される。列車番号は「G10」から始まり、具体的にはG1001 - G1006、G1011 - G1024となる。同時にその他の武漢 広州高速鉄道でも新しい時刻表にて運行される。

鉄道関係者によると、武漢 深圳高速鉄道の開通後、武漢から深圳までの所要時間は最短でわずか4時間強で、運賃は約550元(約7150円)である。これにより、湖北省から深圳や香港への旅行がより便利になるとともに、広東からも多くの観光客が湖北省を訪れることになるだろう。湖北省の観光部門によると、今年の湖北観光は「高速鉄道イヤー」を迎えるのではないかと期待感を示している。湖北省旅遊局市場処の責任者によると、武漢 深圳高速鉄道が湖北省の観光にもたらす「双方向牽引」効果が明らかになりつつあるという。先月は香港ディズニーランドが武漢で顧客誘致のイベントを行い、先週は、武漢旅遊局が広州で武漢の桜をアピールした。

「清明節」は「桜の花見」に最適、3日間で287万人の観光客を迎える

2012年3月31日 武漢晩報

昨日連綿と続く小雨が清明節連休の最終日に終止符を打ったが、武漢での観光熱は少しも下がらなかった。武漢市休日旅行協調会議弁公室の統計データによると、最近の3日間で、武漢を訪れた観光客の数は287万人に達し、桜の花見と重なった今年の清明節連休は史上最も賑やかになった。

記者によると、昨日大勢の花見客が武漢大学を訪れた。今年は昼間はもちろん、夜のイベントも充実していたため、夜も多くの人で賑わった。東湖梨園には、夜のランタンを觀賞する人々が磨山桜園には、夜桜を楽しむ人々がひっきりなしに訪れ、その熱気は昼間に負けないほどであった。武漢市休日旅行協調会議弁公室の統計によると、3日間で、観光客の数は287.52万人に達し、対前年比30.69%増、観光収入は7.19億元(約93.47億円)、対前年比35.92%増となる。人数も観光収入も今までの清明節連休で最も多かった。

武漢市休日旅行協調会議弁公室によると、今年は異常気象の影響で、多種類の花が重なって咲いたことが、多くの観光客を引き寄せる要因となった。また、武漢 深圳高速鉄道の開通が、高速鉄道の観光熱を更に高めた。このほかに、清明節連休と花見が重なり、お墓参りをしてから、花見をすることで、各観光地を訪れる観光客が激増した。